



## そろばんを通じて学んだこと

愛知県 北村 剛志

皆さん、こんにちは。私は兵庫県で生まれ育ち、現在は製造業の会社に勤めています。今回このような機会をいただき、甚だ僣越ではございますが、珠算を通じて得た経験が今の私の会社生活にどのように生きているか、少し振り返ってみたいと思います。

近所の同級生の影響で、小1の3月に珠算を始めた私は、上達していくことが嬉しく、楽しく通塾していました。見取暗算を習い始めた頃、間違えることが嫌で、盤面を思い浮かべずに1口ずつ足していた時期があったことを覚えています。当然速度も出ません。技術的な進歩が期待できないことに気付いたあるとき、「間違えてもいいから、いま一度珠算式暗算でチャレンジしてみよう」と思い、やってみると思いのほか多く正解することができました。これを機に珠算式暗算できちんと練習するようになり、暗算種目が好きになっていったと思います。仕事では、物品購入の予算などお金の計算、機械設備など工学的な計算、業務データの統計処理など、暗算力や数的感覚が生きる場面は多々あり、本当に役立っています。

中学生の時、初めて全大阪オープンに参加させていただくなど、全国のトッププレイヤーの技術を目の当たりにし、大きな刺激を受けました。問題も難しく、小さい頃は一生懸命に練習するだけでしたが、自分の計算プロセスのどこに課題があるかを知り、競技会までの残りの期間でどうやれば目標点に届くのか、技術を磨けるのかを考え、取り組むようになりました。仕事では、締切や目標値を基に逆算して業務計画を立てることが求められ、重なる点が大きいと感じます。

大学生の頃になると、地元の大会では同点決勝に臨むことも増えてきましたが、うまくいかないこと

も多々ありました。地方大会の同点決勝問題などは市販されておらず、なかなかしっかりと準備ができていないな、と感じていました。そこで、無いなら自分で作ってみよう、と思い立ち、「表計算ソフトで作れないか」「乱数を使い、問題が自動作成できるようにしたい」と考え、取り組んでみました。関数を学び、作問規定の壁にぶつかりながらも、数日考えて浮かんだアイデアで乗り越えられたことは嬉しい経験でした。仕事でも表計算ソフトはよく使うため、関数に強くなったことは業務データの処理にとても生きています。

このように、珠算が持つ効用に加え、珠算学習を通じて得た問題解決力や実務スキルが生きていると思います。いずれにおいても「やってみよう」「できた」「苦労したけど楽しい」「次はどうしようか」の好循環が成長につながったと思います。失敗や悔しさを乗り越える。それが結実したときにうれしく、楽しい経験として残り、次への原動力となるのだと思います。このような数多くの“楽しい”経験に導いてくださった故松本四郎先生を始めとする先生方、共に切磋琢磨してくださった全国の選手の皆さまに深く感謝申し上げます。

年齢を重ね、家族も増え、日々の生活の中で優先順位は変わりました。しかし、目標を立てて取り組み、次に向かっていく。そのような、楽しめて自分を磨ける「珠算」という居場所が家庭や仕事の他にあることは、人生を豊かにする大きな財産です。珠算を続けられることに感謝し、家庭や職場で役割を果たし、「そろばん“も”できる人」となれるよう、珠算十段の取得と、我が子と一緒に競技会に参加することを楽しみに、日々成長していきたいと思っています。



## 全く凄くない思い出話だけです…

秋田県大館市立比内中学校 統括事務長 畠山 智晴

**出会い**…昭和48年11月5日(月)。放課後一緒に遊んでいた友だちが「ソロバンの時間だから」と去ってしまい、遊ぶ相手がいなくなったことで「じゃ、自分もソロバン塾に行こうかな」という軽いノリで始めた小学3年生の晩秋。『103-6』が『97』になることがなかなか理解できなかった…。

**挫折**…検定試験も日商3級まではストレートに合格できたのに、2級では2度、1級では3度の不合格。思い返せば、合格ラインは一気に80点上がり、1級なんかは『小数5位まで』だった…。伝算算もあたりで、確実にレベルは高かった。小6の2月、ようやく1級に合格。

**中学時代**…部活動への加入が必須ではなかったことから中学校進学後も週2~3で塾に。この頃には、競技大会にも出場するようになってはいたものの、なかなか個人総合競技では頂点に立つことはできず、得意の読上暗算で1位を狙うことに。

**高校時代**…昭和55年、伝統ある秋田県立大館商業高等学校(現在は改称)珠算部に。熱心に応用計算を教えてくれた先輩。同時に簡便算も教わり、その重要性を感じた。漫才ブームで賑わっていたこの年、国民珠算競技大会は広島県で開催。B&B(漫才コンビです)ネタの「もみじ饅頭が買える!」と興奮。秋には他県に出向いた練習試合も経験。そこで出会った1つ上の女性と仲良くなったことも。彼女の実家の電話番号は今でも覚えています。そして高校2年。遂に、そろばん秋田県一を獲得。高3の2月、1級満点合格をし卒業。

**就職**…高校卒業と同時に現職に就職(秋田県職員・初級学校事務)。競技大会と向き合うことがなくなって約10年。ふと手元にあった問題集に手が伸びて、遊び半分で計算したところ、それ程の衰えも感じられなかったことから、平成4年全県大会で復帰。今年に至るまで31年連続出場。平成6年には、国民珠算競技大会が隣県岩手県で開催され

るからとの理由だけで、12年ぶりに出場した県予選大会で再び秋田県一に。平成14年には名人戦が青森県で開催。これもまた隣県だからとの理由だけで記念の出場。また、同業者には大館商業OBも多く、その中で珠算に興味のある面々で団体を組み全県大会にも出場。毎年、揃いのユニフォーム(Tシャツ)での出場が注目されることに。大人の『遊び』も加えて、楽しむソロバンに。平成22年、東北大会(福島県開催)で、六県対抗競技で同点決勝の末、無敵と言われた宮城県を倒して初の優勝。後にも先にも、涙を流した最初で最後の大会だったはずが、今年は選手から監督という立場に替わって12年ぶりの優勝でまた涙を流すことに…。

**職場**…学校勤務も40年目となり、ゲストティーチャーとして小学校の珠算の授業に何度か。しかし、あの短時間で『15+8』や『13-6』まで導こうとはなんと無謀な! 昨年の指導時には『1+2+5-2-1-5+10+5+1-5+10+7-2+10-1+10+50-40』を教え、「これを、素早くできれば、ソロバンをやったことがあるフリができるよ!」と。たぶんもう忘れていてでしょう…。

職務上、たくさんの数字と対峙しますが、私の机上には電卓はありません。そのほとんどは暗算で解決できます。そして、エクセルで資料を作成した時の、特にSUM関数の確かめ。必ず暗算で検算をしてしまいます。(頂く方も多いのでは)

計算力・記憶力・集中力・持続力・精神力…今さら私ごときが改めて語ることもないでしょう。

これまでの約半世紀で出会った、珠算に関係している全ての皆さまに心から感謝して、今年限りで私の珠算道をご破算としたいと思います。そして何より最後の東北大会で神様からの六県対抗優勝監督という最高のプレゼントに感謝しています。ありがとうございました。



## 私の骨格を作るそろばん

(株)コマツ 北 晃 充

私の実家は、祖母と父がそろばん教室の先生をしており、自然と幼い頃よりそろばんというものに触れていたように思います。思い返してみますと、小学校1年生になったことを機に祖母よりそろばんを習うこととなりました。祖母は若い頃、県大会や全国大会で上位入賞したこともあってか、それは大変厳しい妥協を許さない指導であったと記憶しております。時には反発もしましたが、しかし、それによって何事もメリハリをつけること、けじめをつけることの大切さを当たり前のように身に付けたように思います。また祖母とよく散歩に出かけ、暗算の問題を歩きながら問答していました。そのことが子どもながらも楽しく自然と暗算力が身に付いたと思います。各種競技大会にも参加し、上位入賞を果たしたことや、珠算・暗算の段位資格取得をしたことは、この上ない喜びでした。小学校6年間、珠算教室において、ライバルと競いあった経験や、毎年夏休みには珠算連盟が企画してくださった旅行等を通して、たくさんの交友関係を築けたことは、私にとってかけがえのない大きな財産となっています。

そろばんを通して培った計算力・暗算力・集中力は私の血肉となり骨格となり、今の日常生活や仕事において欠かすことのできない、極めて重要な役割を占めているように感じています。私は現在、建設機械(株)コマツに勤務しており、商談で部品の購入において打ち合わせをすることがよくあり、概算で瞬時に暗算で計算をし、スムーズに優位に事を進めています。また、昨年よりアメリカのキャタピラー社と唯一競合するブルドーザーの新機種開発の業務に携わっております。そこでは約200人ほどの人と関わりながらその車を開発しております。私の仕事はその開発業務を推進することとして、日程・コスト・品質を全体最適で推し進めていかなければなりません。それには情報を整理する能力、エクセルを使ってのデータ整理

など様々な情報を整理して開発部隊に示し、周りの人たちの合意をとりながら進めていかなければなりません。そこで重要なことはデータで語ることです。データで語ればすべての人が理解できます。ここでいうデータというのは数字のことです。感覚や経験でなく、数字で示すことで周りが納得でき、それを根拠に多くの人がある方向を向いて全体で進めていくことができます。ここでもやはり、数字を扱う基盤としてのそろばんが大いに役立っています。

また、今の仕事において、与えられた納期で全体をよりよい方向へ持っていく、方針付けを行う場面が多くあります。それを開発日程内で、与えられた時間内で、それらを行っていかねばいけません。これを達成するためには集中力が必要だと思います。集中力があるのとないのではできあがった成果に大きな差があると感じております。短時間で頭の中で情報を整理し、それを吐き出し、相手に伝える。まさに集中力こそが成否のカギを握っているといっても過言ではありません。ここでもやはりそろばんに身に付けた集中力のお陰と感謝しております。このように、私自身そろばん経験の良い面を享受し続けており、今後もそろばんは私の公私において大きな影響を与え続けていくことでしょう。

昨今、IT化が急速に進み、計算道具としてのそろばんは忘れ去られつつあるようですが、学習用具としてのそろばんは見直されてきていると聞きます。右脳と左脳を同時に活用し手や目を同時に使うことで脳に刺激を与え、脳力を開発するのに非常に優れた教具であるからです。数感覚が豊かになり十進位取り記数法の理解が容易になり数の相対的な大きさがとらえやすくなります。まさに日本の伝統的文化であるそろばんが今後益々発展し、普及していくことを切に願ってやみません。



## 私の珠算の学び

東京大学3年 今村 太耀

私は自宅近くの教室で、小学校3年生から珠算を習い始めました。そのきっかけは仲の良い友だちが通っているからというとても些細なもので、入った当時は学校以外で友だちと会えることが嬉しくて珠算を始めた気がしています。元々算数が好きだったのもあって回数を重ねるごとに珠算の楽しさにも気づくようになりました。特に暗算はそのまま学校のテストや課題にも活かすことができすぎてありがたかったです。

それから一年ほどして仲の良かった友だちは珠算をやめてしまいました。少し残念でしたがだんだん珠算が楽しくなってきた矢先だったので、その友だちの成績を超えることを目標に珠算を続けることを決意しました。それから一、二年でその目標は達成することができました。

その後も順調に上達していったのですが、珠算検定試験一級で初めて不合格になり落ち込んだのを覚えています。何回か受けたのですがいつもあと少しのところまで合格できないことが続きました。心が折れそうにもなりましたが、ここまできたなら絶対合格してやるという気持ちも芽生え始め、無事合格を勝ち取れました。その時の達成感は今でも鮮明に覚えています。

中学生になって珠算の色々な行事にも参加するようになりました。自分が通う珠算教室以外の人や全国に名を連ねる人たちのレベルを体感するなど、多くの刺激を得ることができました。自分の年齢の半分ほどの小さい子が難しい問題を楽しみながらこなしている様子は、珠算の世界の奥深さを知るきっかけにもなり、私ももっと小さい頃から始められていたらと思ったことは少なくありませんでした。中学生になるとどうしても平日は時間が取られてしまうのでだんだん珠算にかけられる時間が少なくなっていました。しかし、その限られた時間の中でも精一杯に練習に励んだ結果

順調に成績は向上していきました。

そんな私も気が付けば高校生になり、自分の通う教室の生徒の中で一番上になっていました。高校生になるとさらに時間がなくなり、勉強の難易度も上がってきたこともあって高校一年生の途中で珠算を離れることになりました。

自分はとても短い期間しか珠算と関わることができませんでしたが、そんな中でも大きく3つの学びがありました。一つ目は、試験の緊張感に慣れることができました。普通の試験以上に珠算の検定試験は緊張などの精神状態が大いに関わってきます。試験に慣れるまでは開始数分は手が震えてうまく計算ができないことも多かったです。時間もそれほど余裕があるわけではないので限られた時間で問題を捌く能力は高校や大学の受験にも役立ちました。二つ目は、純粋な計算・記憶能力アップです。試験やテストの計算はもちろん買い物での費用の計算や料理のレシピを人数分に換算するときなど日常生活でも計算をする機会は思ったよりたくさん存在します。電卓を準備して計算することもなくちょっとした楽ができて嬉しいことが多いです。最後に学び続ける心です。前に述べた通り珠算を通して多くのすごい実力の人たちを目の当たりにしました。どの分野にも上には上がいることを初めて具体的に実感するいい機会でした。今の自分の実力に満足することなく常に向上心を持って取り組むことが学ぶものの志として大切だと感じました。

現在自分は大学三年生になり東京大学理学部数学科に所属しています。大学の数学では四則演算のような計算はあまり登場しませんが、数学に興味を持った今の自分はこれまでの珠算をやってきて計算が楽しいと感じた経験の積み重ねの上に成り立っていると感じています。将来の道が決まって一段落したら再びこの道に戻ってきたいです。



## 農業高校から銀行へ就職

苫小牧信用金庫 山本 風花

皆さんこんにちは。まず、初めにお断りをしておかなければならないことは、タイトルが『そろばんで凄い人』となっていますが、私はそのような人物ではないことをお伝えいたします。

私は、幼稚園の頃からそろばんを習っていました。動機などはなく、そろばんを習うのが当たり前の環境で育ちました。

実家がそろばん教室をしていたこともあって、いつの間にか教室にいるようになりました。友達もいたので楽しく練習していたと思います。

ほぼ毎日練習をしていましたが、のんびりゆったりと練習をしていたので一級合格したのは中学生になってからでした。

祖父は『そろばんは頭の体操だから毎日こつこつと練習することが大事なので上達はあまり考えなくてもいい』と言っていたので気にしなかったと思います。

高校は岩見沢農業高校に進学したので実家を出て、高校の寮に入りました。そこでは、主に暗算の練習をして頭の体操をしていました。

さて、私がなぜ岩見沢農業高校に進学しようと思ったのかについてお話します。

中学三年生のころ、祖母が糖尿病になったり、大腸がんになったり、母が食品添加物についていろいろ調べていたので、私も健康に良い食べ物はどのようなものかを勉強したいと思うようになりました。

農業高校に入って数カ月後のグリーンフェアに学校で作った作物などを販売する行事があり、父、母、妹、弟たちと祖父、祖母そしておじさんもきてくれました。

販売品の一例を書くと、アイスクリーム、お米、ソーセージ、ジャガイモ、お花などです。

これらすべて農業高校の生徒達が育てたものです。

販売品の中には、例えば、トマトを化学肥料だけで育てた場合のものと、有機肥料で育てた場合の発育の違いなどを説明して、味の違いなども体感してもらいました。

毎年化学肥料ばかりで作物を作ると、その土地はやせるといわれています。

楽しいグリーンフェアの行事も一年生の終わりにコロナウィルスが流行し、二年生、三年生の時は残念ながら中止となってしまいました。

農業高校では農家の子が多く、将来は実家を継ぐ友達もいました。そのため、経営を管理する農業簿記に通ずる、基礎的な商業簿記がカリキュラムの中に入っていました。

二年生の時、三か月間の自宅学習があり、この時独学で簿記を勉強し日本商工会議所主催簿記3級を取得しました。

さて、いよいよ就職を考える時期になり、どうしようかとあれこれ考えていました。

生まれ故郷の苫小牧市に戻って就職したい、健康に関わる仕事がしたかった。けれど、条件に合うものが見つからず、高校の担当の先生とあれこれ相談し、そろばんと簿記と数学が好きだったので銀行に就職しようと思うようになりました。

農業高校からの応募でしたが、採用していただきとてもうれしかったです。

いろいろな人から農業高校から銀行に就職できたことに驚きの声が聞こえました。

ちなみに母も苫小牧工業高校から苫小牧信用金庫に就職していました。

今は、仕事の内容を覚えるのに必死で勉強しています。

そろばんをやっていて良かったことは、高校時代、食品の栄養素についての分析結果を正確に算出することができたことです。

また、苫小牧信用金庫に入ってからはいろいろなシステムや作業を指導していただく際、先輩や上司から「覚えが早い」「記憶力が良い」と褒めてもらえました。

最近、SNSで流行っている、キラキラしたおいしい食べ物がいっぱい売っていますが、食品パッケージの後ろには必ず成分表示が記載されてい

るので、よく確認して、自分の体にいいものなのかを考慮しながら買ってほしいです。

考慮するといっても、インターネットの情報は誇張して書かれることもあるので、図書館に行って、いろいろな情報から判断してほしいと思います。商品は私たちの体に良く作用することも害になることもあるので、皆さんにはもっと気を付けてほしいと思います。

話がそれてしまいましたが、私はそろばんに会えてよかったと思います。

## そろばんグランプリジャパン2023 開催のお知らせ (そろばん日本一決定戦)



競技企画部会

### ■ 開催日時

2023年7月23日(日) 午前9時20分～午後4時45分  
午前8時45分開場

### ■ 会場

神戸常盤アリーナ (兵庫県立文化体育館)  
〒653-0837  
神戸市長田区蓮池町1番1号  
TEL 078-631-1701

そろばん教室・生徒のための

# そろばん DANQ (ダンク) アプリ誕生!!

対応機種：iOS/Android/スマホ/タブレット

生徒の学習効率アップとそろばん塾の負担軽減をICTで両立

## そろばん塾の生徒増加と学習成果向上に貢献

塾  
無料  
※生徒300円

コロナの影響で今まで通りの授業を続けられるか不透明な今、生徒のモチベーションを維持することが大切です。スマホアプリDANQは、授業中はもちろん自宅学習でも先生をサポートし、生徒のやる気を引き出します。

お問い合わせは  
こちらのQRコードから!



Asahi Printing  
株式会社 朝日プリント社

DANQの機能を  
紹介した動画はこちら!



おうちでもれんしゅう  
がんばるぞ!





## そろばんを通して得た宝

TIS株式会社 土生 桃子

母が私を初めてそろばん教室に連れて行ったのは小学校1年生時の冬でした。そろばんを始めてかれこれ17年以上が経ちますが、日常生活においてそろばんを通して学んだことが生かされなかった日は1日たりともありません。この場をお借りして、私がそろばんを習うことで得たものについてお話ししたいと思います。

横浜の教室に約1年通った後、転勤により仙台に引っ越しました。教室が変わった小学校3年生からは週に3~4回、一日約3時間ずつ教室に通いました。やはり「好きこそ物の上手なれ」で、そろばんが楽しくて仕方がなかったこの時期が一番上達したと感じます。また、大会でライバルや自分自身と競う楽しさを覚えました。

中学~高校では、受験勉強が忙しく練習時間が減るなか、効率的に点数を伸ばすために工夫を始めた時期でもありました。高校を卒業して京都大学に入学してからは、友人たちと一緒に珠算同好会を新設しました。卒業した今も精力的に活動しているようで、大変嬉しい限りです。

珠算と密接に関わるなかで身についたと感じる能力は三つあります。一つ目は問題解決能力です。珠算式暗算は、頭の中にそろばんを想像して計算を行うため、イメージ力が鍛えられる側面があります。問題に突き当たった時、解決する方法を瞬時に思考することが得意になりました。また、問題の解決法がわかるということは、問題そのものの性質がわかるということです。問題解決能力に加え、物事の本質を見抜く能力も備わったと感じております。

二つ目は工夫する能力です。受験を控え練習時間が限られるなか、「どうしたらもっと速く、正確に計算できるだろう?」と様々なことを試しました。計算している時の自分の癖に注目し、速算の妨げになることや、足りていない部分を一つずつ矯正しながら練習をする、そうすることで、少

ない練習時間をより有意義なものにすることができました。上達を目指して試行錯誤する経験をしたことが大きな財産になっていると感じます。

三つ目は精神力です。検定試験や大会では、限られた時間でより多くの問題を正確に解くことにより最終的な成績を決定します。これは非常に精神が鍛えられる作業です。周りに多くのライバルがいるなか、自分をコントロールして普段通りのはじきをするのは大変難しいことです。受験や出場の経験を多く重ねることで、極度の緊張を跳ね返す強靱な精神が養われたと感じています。余談ですが、私は高校・大学受験で緊張することがありませんでした。そろばんの試験や大会で場慣れしていたおかげだと思えます。

私は今IT企業でシステム保守の仕事をしています。そろばんとコンピュータ、一見共通点などないように思われますが、実はそろばんはコンピュータと同じデジタル器具の一種なのです(アナログとデジタルの意味を調べてみるとわかります)。そろばんは昭和の産物で昨今のデジタル社会では時代遅れ…なんて言われたりしますが、そうではありません。そろばんを通して培われる経験や能力は幅広く応用が可能です。そろばんは私の人格の土台部分を形成し、生活の様々な場面において大きな影響を与えていると感じます。そしてその能力は、仕事において、また未来の社会においても、普遍的に通用するものであると信じております。そろばんに出会えたことこそが私の一生物の宝です。

最後に、熱心にご指導に当たってくださった先生方、普段の送迎や大会の出場など、様々な場面で応援してくれた両親と祖父母に心より感謝して結びの言葉とさせていただきます。そろばんを習っている皆さん、更なる上達を目指してがんばってください!



## そろばんを通して学んだこと

防衛医科大学校看護学科4年 蒲生 泉海

こんにちは。蒲生泉海と申します。防衛医科大学校看護学科に通っており、今年で4年生となりました。今回このような貴重な機会をいただきましたので、そろばんが私のこれまでの人生にどのように影響してきたのかについて、少しお話をさせていただければと思います。

私がそろばんを習っていたのは、小学校1年生から6年生の約6年間で、近所のお友達が習っている姿を見て自分もやってみたいと思ったのがきっかけで始めました。習いたての頃は、初めて触れる少し変わった箱型の道具に戸惑いつつも、少しずつ問題が解けるようになっていくことがうれしかったのを覚えています。級が上がるにつれて難しい問題が増えていき、できない自分に腹が立って心が折れそうになることもありました。それでもそろばんをはじき続け、6年間最後の検定で目標だった珠算段位認定参段を達成できました。この経験は、今でも自分の自信につながっています。

約6年間でそろばんから得たものは数えきれないほどありますが、その中でも、私を今でもたくさん助けてくれている「計算力」と「忍耐力」についてお話ししようと思います。

まず「計算力」について、これは言うまでもないですが、そろばんを習得したことで計算スピードや計算における正確性が磨かれたことを確信しています。この2つがその後の中学校・高校における数学や受験勉強等に大きく影響しており、特に理系の科目に対して得意意識を持てるようになりました。そろばんでは大きな桁の計算も行うこともあり、数字に対する拒絶がないので、それだけでも苦手意識を無くすことができたように感じます。また、そろばんで培った「計算力」、特に暗算の力は、大学生になった今でも、看護の国試

問題といった勉強で大いに役立っています。

そして、「忍耐力」についてです。そろばんは常にミスとの闘いであり、どれだけ正確に答えを求められるかが問われます。実際の私の話をすると、そろばんを始めたころは楽しくて仕方なかったのですが、何度も難しい問題に直面し、検定に合格できなかった時には「もうやりたくない」という感情が湧いてくることもありました。それでも、諦めることなく数をこなしていくことで、最初は上手くできなくても、少しずつ問題が解けるようになっていき、コツコツと努力を重ねれば必ず上達する、ということ学びました。これを何度も経験することで、自然と「忍耐力」が身に付いたのだと思います。すごくしんどかった大学受験もこの「忍耐力」で乗り切って無事志望大学に合格し、今思い返すとそろばんを習っていて良かったなと心の底から思います。

そんな私は現在、防衛医科大学校看護学科にて、最高学年となりました。今の私の夢は、無事看護師と保健師の国家試験に合格し、その後「認知症看護認定看護師になって、増え続ける認知症患者への、本人を尊重したケアの向上に貢献すること」です。日本は高齢化が急速に進む世界の長寿国で、認知症患者が非常に増えてきています。認知症とともに生きていくためには、認知症の人が尊厳を持って自分らしく過ごせる社会づくりを早急に構築する必要があります。私は、それを支援する人たちの中の一人になりたいのです。その道りは決して楽なものではないですが、この夢を叶えるための過程で、そろばんを通して得た沢山の経験が私に大きな力を与えてくれると思います。必ずや私は、今後の人生でも、そろばんに出会ったことに何度も感謝することになるでしょう。



## 私にとってそろばんとは

三重県 名古屋工業大学大学院2年生 杵川 日向雅

三重県の椋本珠算学校に所属しています、杵川日向雅です。この度、「そろばんで凄い人」への執筆という大変貴重な機会をいただきました。誠に恐縮ではございますが、本稿ではこれまで私が向き合ってきた珠算について少し綴っていただけたいと思います。

私が珠算を始めたのは平成18年の6月、きっかけは父からの勧めでした。当時小学1年生の私は「ソロバン」が何かも分からず、嫌々教室に通っていたのを覚えています（笑）。とはいえ、幼い頃から負けず嫌いで何故か数字が好きだった私は、計算道具としてのそろばんの魅力や検定に合格した時の嬉しさに惹かれ、気付けば教室に行くのが楽しみになっていました。その後は様々な大会に出場させていただき、そのたびに目標に向かってがんばることで、競技としての珠算の楽しさにも気付いていきました。

私が幼い頃から、三重県には競技レベルの高い大人の方々が多かったことで、そんな彼らは未熟な私にとって憧れの存在でした。そして、練習会や大会へ参加させていただくうちに、その「憧れ」は「目標」に変わっていきました。練習のなかで目標にさせていただけるような人たちがいつも身近にいてくださり、それに向かってがんばる私をたくさんの方々が応援してくれる。そのような温かい環境が、私を大きく成長させてくれたのだと思います。また、私の世代（2000年前後生まれ）は、幼い頃から全国の最前線で活躍していた選手が多い世代なので、そんな素晴らしい選手たちを目の当たりにしてはまた憧れ…。私の成長は、いつも「憧れ」から始まっていました。圧倒的な実力を前に挫けそうになり、でもずっと「憧れ」のままではいけない。その繰り返しで、諦めずに少しずつ努力を重ね、多くの方々に支えられながら今に至ります。

これまで雑誌や新聞の取材で『あなたにとって

そろばんとは?』と聞かれることが何度かありました。私はその度に返答に困りながら、「いずれは何か答えられるように」と思い続けてきました。今は、私なりに一つの答えを持っています。

私にとってそろばんは、「がんばるものの大切さを教えてくれるもの」だと考えています。検定も大会も常に自分の限界へ挑むものなので、悔しいですが努力したこと全てが報われるとは限りません。それまでの努力とは裏腹に、本番で思い通りの結果が出せないことも多くありますし、報われるか分からないなかでがんばるものの意義が見えなくなることもあります。それでも、努力を続ければ何かは変わるかもしれません。努力をやめれば夢や目標は達成できなくなってしまいますが、諦めずにがんばり続けていれば成功の可能性は少しでも上がるかもしれません。「最高点を5点更新できた!」「最高タイムを1秒更新できた!」どれだけ小さくても、日々の練習のなかで少しでも変わっていくものが見つければ、がんばった意味は少しずつ見えてくると思います。努力の先に夢を掴めた時、自分を支え、応援してくれた方々への恩返しができる時、がんばり続けた自分を心から褒めてあげられた時に本当の意味で「がんばってきてよかった」と思えるので、その瞬間をイメージしながら、多くの人への感謝を忘れず、私も日々がんばり続けています。とはいえ、思いも練習も詰めすぎると辛くなってしまいます（笑）。珠算を楽しむ・好きな気持ちを大切に、適度に休息もしながら、今できることを精一杯続けていきます。

今年度で学生生活が終わり、来年度から社会人1年目が始まります。小学1年生から全学生時代を共に過ごした珠算と、また新しい一步を踏み出していきます。まだ先のことで不安も大きいですが、初心を忘れることなく、今後も変わらず大好きな珠算に向き合っていけたら嬉しいです。



## 読み書き“そろばん”で育った物語

(株)秋田ふるさと村 営業部長 佐藤 文浩

実になるような内容ではありませんが、読み物としてご覧を。

まずは自己紹介。生まれは「かまくら」で有名な秋田県横手市の、今では国から伝統的建造物群として指定された増田町の商家に生まれたのが昭和42年。同町は漫画「釣りキチ三平」の作者・矢口高雄先生の出身地で、日本初の漫画をテーマとした「増田まんが美術館」が所在、45万枚余の原画が収蔵されている。

余談だが、矢口先生は30歳で漫画家になる前は銀行員で、その回顧録的作品に「9で割れ！」があり、表紙にしっかりとそろばんが登場している。

さて、私がそろばんに触れたのは物心がついた6歳、5つ玉算盤（知ってるかな？）を裏返しにしローラースケートのように遊び怒られたのが最初。

実際に家人はその「5つ玉算盤」を使って計算しながら、出納簿等を記帳していた記憶が鮮明にある。

時は経ち昭和52年、相撲は輪島か北の湖、野球は王貞治、テレビではピンクレディ最盛期、小学4年で珠算塾デビュー。半年通うも、何故か6級の見取算で足踏み、嫌気。塾に行くとウソを言い友人と遊び三昧、半年ズル休み。これが親にばれて大目玉を食らい、そろばん人生に幕かと思いきや、新たな塾がオープン。その先生が親と懇意だった関係上、小学5年に強制入塾…。

どうせまた見取算で躓いて終わり、そう思いながら通ってたら、あれれ？ これまでは問題集の解答だけだったけど、読上算とか暗算とかあるし。年齢問わずレベルでのクラス分けあるし。検定だけだと思っていたら大会ってあるんだ…。

そんなこんなが馴染んだのか、順調に級が上がって、小学6年卒業前に1級合格。中学進学で辞めるつもりが、スポーツ不得手の私目は運動部に所属せず、かつ塾長の圧に押され（自分弱っ！）継続。

目指せ国民大会出場をテーマに取り組むも、中学1年の私「こんなムズイ問題無理っ！」と思いつつながら毎日練習。これが段々とできてくる不思議。継続は力なりか！と気付く。

それでも珠算選手として決定的なダメージである暗算力の無さ。これを珠算科目でカバーしようとする健気な努力？ かな、右指のみならず、少～しだけ左指も使う技に。

そしてその日は来る。高校3年の春、強者不在、かつ素質ある若者はその芽が伸びきっていない間隙をついて（笑）ゲットした秋田県一。調子に乗って20歳でもう一回。

珠算を経験してきて良かったことは、個人競技メインで孤独な戦いではあるものの、塾の仲間、珠算部（湯沢商業高校）の仲間、大会で会う良き強敵らと語り、切磋琢磨し、今でもネットワークがあること。

加えて鍛えられた計算力と集中力、そして創造力。これはあらゆる仕事に大いに役立つ。私もそのお蔭で獅子奮迅の活躍（自分で言うか！）にて現在の職を全うし、地域の各団体で役を担い、地元の学校運営に携わることが叶っていると実感する。

最後に、こんな私からおこがましいとは思いますが、技術向上に日々研究をされ、子どもたちのために、また珠算界発展のために尽力されている関係各位に敬意を表したい。



## 大学合格で“そろばん”に感謝

早稲田大学 2年 大平 優

初めに天津支部の先生方に私のような者にこのような機会をいただき厚く御礼申し上げます。

母がそろばん教室を営んでおり、幼少期からリュックを背負い、生徒たちが教室へ「こんにちは、お願いいたします」と入ってくる光景を見て「そろばんやりたい」と言ったそうです。数字の8も書けず○と○の間があき、もう一つ○を書けば申団子でした。

小学校1年生の秋から京都府の西京都学院に入塾し、年上の選手の方と一緒に練習し、大会や検定で切磋琢磨していきました。そのおかげで中学3年生の10月に珠算10段を取得できたので、お題のような、決して“そろばんで凄い人”ではありません。

4ヶ月後の2月には、珠算、暗算とも満点をだし、当時史上二人目10年ぶりの満点合格。奇跡のような点数成績を見て、号泣したことは今でも覚えております。

そのお蔭で地方新聞やYahoo!にも取り上げていただき、それを見られた英国BBCから取材を受けました。

大学受験になり、一次試験書類選考で302人の中から70名程度の合格者。何とか通過し、そこから、各ブロックごと、北海道、東北、関東、北陸、東海、中国四国、近畿、九州ブロックで各5名程度の合格。定員35名の要項です。二次試験は、午前中小論文で午後から面接でした。

周りには多分それぞれの分野（スポーツや文化系）のすご技の人たちばかりです！周りを気にすることは一切せず、試験会場を出る時には、立ち上がれなくなっても満足で終わりたかった。

面接が終わり想定外の質問に答えられず東京駅で大号泣してしまいました。伝えたいことを言え

ず、質問には“わかりません”としか言えず、後悔と脱力感で帰路しました。結果が出る20日間の日々はただ祈るだけでした。合格の文字を見た時は、ひと目も気にせず泣き、担任の先生にも学校の廊下まで響きわたる声で喜んでいただきました。そろばんをしていたことに“感謝”の瞬間でした。

担任から卒業証書をクラスで授与され時に、「大平さんには、そろばんという誰にもできない特殊な能力がある、これからもがんばってください」と送り出されました。

そろばんを習って、大会に出る度に挫折し、帰路の電車では沈黙があったり、「継続は力なり」を実感しました。それと同時に、ご指導していただいた先生方にこの場をおかりしてお礼を申し上げたいです。本当にありがとうございました。

次は、2年後就職活動に直面することになりますが、どんな向かい風にも対応できるメンタルで挑みたいです。また様々な大会をとにかく楽しんで参加したいと思っております。今後ともご指導のほどよろしくお願いたします。





## 感謝

熊本県 認定こども園シオン 高木 幸乃

私は、小学三年の時、友人が珠算教室に通っていたことがきっかけで、そろばんを習い始めました。始めた頃は、上手くできずに泣いてばかりでした。

習い始めて三年が経った頃、通っていた教室が閉鎖することになりました。ちょうど中学に入学する時で、続けるか辞めるか迷っていたところ、中学からバスで通える教室があると母親が教えてくれました。学校から出て左右どちらの教室に行くか考え、左方面の教室を選んだ私は、今もその教室でお世話になっています。

入塾した頃は、雰囲気馴染めなかった自分がいました。その姿を見た先生は、夏にお楽しみ会、冬にクリスマス会を開いてくださり、楽しめる機会を設けてくださいました。教室にも慣れてきた頃、高校は情報ビジネス科に入りました。パソコン、簿記、珠算、電卓など沢山の勉強に取り組んできました。当時、私が珠算をしていることを知った情報科の先生から「大会に出てみないか」と誘われ、電卓・珠算競技大会に出場させていただき、三年の時に暗算で一位、その他の競技も入賞することができました。私にとって、とても良い経験となりました。その後、保育士になるため、専門学校に通い始めました。様々な勉強をしながら、日々練習に取り組みました。今振り返ると、高校、専門学校、就職とどれも珠算を長年続けてきたことを認めてもらい、進めたところばかりです。成人祝いには、ワンタッチそろばんを先生からいただき、一生の宝物となっています。

社会人となってからは、私の珠算生活が勢いを増しました。毎朝早起きをし、練習してから仕事に行くことが日課となりました。保育士と珠算は

あまり関係ないようですが、珠算で身につけた計算力、集中力、忍耐力は保育士の仕事をするうえでも大切な力となり、様々な場面で力を発揮することができています。

練習をしていてもなかなか結果が出ず、悩んでいた頃「読上算」に出会いました。始めは、ゆっくり読まれる数字をよく聞き、入れることで精一杯でした。その読上算の練習を重ねるごとに楽しさを感じ、夢中になり、次々と級を上げ、昇段していきました。いつの間にか大好きになった読上算。数年前に出場した全九州珠算選手権大会で「いつか読上算で三位を取りたい」という気持ちが芽生えていました。それから読上算一筋になり、力をつけるために、両手運指法を取り入れ、毎日練習に励んでいます。昨年、佐賀で開催された全九州珠算選手権大会では「絶対三位を取りたい」という強い気持ちで、挑みました。次々と正解し、夢だった三位入賞を果たすことができました。検定でも七段に合格し、その嬉しさは言葉では表現できないほどでした。現在は、保育士を続けながら、次の目標となる読上算八段合格、九州大会では、二位入賞のために日々練習に取り組んでいます。

私が、これまで珠算を続けてこられたのも珠算を知るきっかけを作ってくれた友達、続けることの道筋を教えてくれた母親がいて先生との出会いがあり今の自分がいます。

私の珠算人生に彩りを添えてくださった方々への感謝の気持ちで溢れています。珠算を始めて二十七年目になりますが、これからも感謝の気持ちを持ち続け、次の夢となる、読上算十段合格を目指して日々努力していきます。



## デジタル化の世の中、そろばんで育つ

北海道大学工学部 4年 窪田 直純

初めまして、こんにちは。窪田直純といたします。私は現在、北海道大学工学部の4年生で交通関係の勉強をしています。今回私とそろばんについて書く機会をいただきましたので、拙稿ながらご覧ください。

私のそろばん人生は6歳から。ゲームセンターなどの娯楽はなく、学校や外で遊ぶことくらいしかやることがなかった町で育った。遊んでいない時間は教師をしていた祖父の家で読み書きを覚え、掛け算九九表を暗記し、よく遊びよく学ぶ幼少期を過ごした。

幼稚園をもうすぐ卒園するという頃に、友人が何人か通っていたそろばん教室に通い始めた。特段親や友人から誘われたわけではなく、当時から好奇心旺盛だった私の興味本位でのスタートだった。最初は「ちびっこそろばん」という基礎基本のテキストを解き進め、暇な時間はほとんどそろばんを触っていると、あっという間にちびっこそろばんシリーズを網羅していた。幼いながら無意識に努力を継続していた自分には拍手を送りたい。

転機は小学2年生の秋。2回目の参加となったそろばんコンクール苫小牧珠算記録会小学2年の部で優勝し、各学年の賞の中でなぜか一番大きかったトロフィーを手にした。当時は自分や家族含め、1位を取るとは誰も思っておらず、思いがけない本番での強さを発揮した。それからはコンクールで1位を取ることを目標に毎日そろばんに触れる生活をしていた。順調に級位、段位を取得し続け、そろばんコンクールでは中学3年まで1位を譲らなかった。高校生から地元を離れることを決めていたので、これを機に9年間のそろばんと

の生活から離れることとなった。

と、私のそろばん人生について語るのはここまでにして、大学4年生になった今、幼少期からそろばんをやっていてよかったと思ったことを述べよう。

第一は、迅速な計算力が身についたことだ。音楽をやっている人の「絶対音感」のようなもので、そろばんを練習していくと自然と頭の中にそろばんが出現する。この「脳内そろばん」のおかげで日常生活の簡単な計算（例えば、○%引きの商品はいくらになるか、合計予算はどれくらいかなどの主にお金の計算）は瞬時にこなせるし、大学入学共通テストの数学は暗算でできる問題も多く、他の受験生よりも有利に進めることができた。おかげで会計係やお店の予約、勘定を任せられることは多くなったが、自分の計算が1番信用できるのでこれは良しとしよう。

第二は、情報処理能力の向上だ。単なる情報処理だけでなく、これには集中力や観察力も含まれると思うが、「どの問題から解くのがいいか」「あと何分で何問解くか」などを考えるうちに問題を解き進めることで、自然と脳内で創意工夫がなされる。これが情報処理能力を向上させる要因の一つだと考える。社会での情報処理能力は仕事や勉強を円滑に進めるうえで最も重要で（自分自身まだ社会人とは言えないが、塾講師のアルバイトをしても感じる）、処理能力が高い人は今自分が何をすべきか、最優先事項はどれか、周りの人達は何をしていて自分がなにを求められているかを感じ取り、誰かに指示されなくても最善の行

動をとることができる。この点で最善の選択を取る意識や迅速な行動ができるようになると感じる。

第三には、記憶力の向上があげられる。暗算や読上算では瞬間記憶力が求められるのは明確で、そろばんに触れることで長期的な記憶力も向上すると考える。先ほども述べた「脳内そろばん」が出現することにより、右脳の働きが促進され記憶力が向上する。

記憶力に関しては、育った環境や他の学習習慣の影響も当然ある。私はその中でもそろばんのおかげで記憶力が育ったと感じる。

以上の三点がそろばんを続けることの効力だ。

自分も未熟な人間ながら、そろばんの効果は目に見えて感じる。この小稿を読んだ人たちは是非そろばんを続けて地道に努力し、まだ触れたことのない興味がある人は始めてみてはどうだろうか。何歳でも遅くはない。ちょっとした気晴らし、暇つぶし、頭の体操にはもってこいだと思う。

最後に、9年間送り迎えをしてくれて、幼いころからそろばんを身近に置いてくれた両親、熱心に優しくご教授くださり遠征にも連れてってくれた先生には感謝したい。

今後そろばんに触れる人が増え、そろばんに出会えてよかったと思える人がたくさん生まれることを願う。



## そろばんは、私の子ども時代を 彩ってくれた

奈良女子大学生生活環境学部3年 坂本 遥

初めまして、こんにちは。坂本遥と申します。私は現在、奈良女子大学生生活環境学部食物栄養学科3年生で、管理栄養士になるために学業に励んでいます。今は奈良で一人暮らしをしています。地元は長崎県です。私がそろばんに出会い、どんな日々を送っていたのか、そして今の自分にどう繋がっているのか、言葉を紡いでみました。

私がそろばんを習い始めたきっかけは、両親がそろばん教室の体験に連れて行ってくれたことである。当時、私は7歳。その時の記憶は残っていないが、とにかく楽しそうに体験していたようだ。体験を終えて、そろばん教室に通うことが決まり、週3回、学校終わりに、小学校から歩いてそろばん教室に通うようになった。習い始めて少し経った頃、かけ算九九を短時間で覚えたことが記憶に残っている。家のお風呂で声を出しながら、必死にがんばっていた。すべて暗記できて、先生に披露できた時にはとても嬉しかったことを覚えている。その時から「負けず嫌い」な心と「一生懸命がんばる」心が、私の中でぐんぐん成長していたのかもしれない。

結果として、中学3年生までそろばんを続けた。この8年間を通して、そろばんに出会ってほんとうに良かったと、心から思っている。どうしてそう思うのか、その理由を話してみようと思う。

そろばん教室に入ると、「こんにちは〜!」と先生方が迎え入れてくださるところから、その日の練習は始まる。私は、この教室が大好きだった。大会に出るようになってからは、先生のご指導のもと、必死になって練習した場所でもあるし、練習が終わってからの時間は、先生や教室の友達と楽しくお話しした空間でもある。そろばんは一人で練習することもできるが、仲間と一緒に練習するからこそ、上達が早くなる。切磋琢磨しながら、

大会に向けて練習した日々が本当に懐かしい。この経験を通して、仲間の大切さを学んだ。人それぞれ得意・不得意はあるが、お互いに良い部分を見つけて吸収することで、成長していく。これは、大学生になった今でも大切にしていることであるし、そろばんを習って良かったと思う理由の一つである。二つ目に、「一つの物事に本気で打ち込む経験」ができたことである。そろばんには、正確さとスピードが同時に求められるため、集中しないとミスが連発する。大会に出るとなると、より高い集中力が求められる。だからこそ、やりがいを感じていた。練習すればするほど、結果に現れた。「本番のように練習すること」「本気で練習して、それを継続すること」これを小学生のうちから経験できたことは、今の自分に大きくつながっているように思う。三つ目に、本番や緊張に強くなったことである。そろばんの大会の緊張感は、他にはないものだと思う。あの緊張感の中、そろばんをはじき、計算を進めていく。何度も大会に出ることで、いつの間にか本番に強くなっていた。

今後、そろばんをはじく機会はないかもしれない。だけど、そろばんを通して培ったものは、今も私の中に確かにある。これからも、そろばんを通して身に付いた力をバネに、私は向上心を持ち続けて、成長していく。

最後に、私と本気で向き合ってください、熱心にそろばんを教えてくださいました先生方には、心から感謝を伝えたいです。身に付いたのは計算力だけではなくありません。私の人間性も、そろばん教室で大きく成長したと思っています。そろばんは辞めてしまいましたが、大学生になった今でも、長崎に帰ると先生方には会いに行きたくになります。それほど、私にとって大切な出会いであり、大切な思い出です。

## そろばん等に思うこと

元 新潟県庁職員 小柴 昭彦

私は、2023年の八月に八十歳になりました。暗算を再び始めたのは、七十二歳の時に、近くにそろばん教室があり、昔、習った暗算に興味があったのがキッカケです。

現在もそろばん試験に参加していますが、暗算で、総合では初段、個別では、みとり暗算が貳段、かけ暗算が準貳段、わり暗算が初段です。また、そろばんの県大会にも参加しており、読上暗算で、昨年は三位、今年は四位でした。ただ、読上暗算を見ると、今の人達はレベルが上がっており、頼もしく感じています。

なお、私がそもそも、そろばんを始めたのは、小学四年生の時であり、中学二年で一級合格、高校一年の時に県大会で読上暗算を、ようやく優勝しました。

仕事は、二十三歳の時に新潟県庁に入職し、商工・教育・病院・企業誘致・税務・障害福祉等の職務を行い、三十六年間勤務し、五十九歳で退職しました。

また、大学時代から目指していた税理士と中小企業診断士の資格を試験等を通じてどうにか獲得し、その後は継続的に更新してきました。退職後、同僚達と懇親会を時々やりますが、彼らが言うのは「おまえのことは、仕事よりもそろばんに印象が残っている」と言われます。退職後は、病院や特別養護老人ホーム・障害者施設などに関心がありましたので、この病院等（職員千五百人程）を経営している理事長にお願いし経理部員として就職しました。この法人の中心は新潟県長岡市ですが、東京都新橋で特別養護老人ホーム、障害者施設等を運営していましたので、新橋へ行って職員

の人達とそろばん等を使いながら、収支状況等を検討したことを懐かしく思っています。その後、六十五歳で退職し、税理士、中小企業診断士の資格で「小柴福社会計研究所」として独立開業しました。

しかしながら、七十歳の時から高血圧や腰椎狭窄症などの病気に襲われ、独立で職務は難しいと考えました。そこで、この研究所をやめ、社会福祉法人等公益法人の監事や監査委員に専念することとしました。監事等の職務は、その法人の財務状態や仕事の状況をチェックすることが、本務であります。詳細に言いますと、公益法人の決算期や例月検査では、億円以上の収支計算書等で、そろばんと暗算でチェックしています。

仕事以外ですが、腰椎狭窄症などになった時、ふとしたことで「フレイル」という言葉を知りました。フレイルとは、筋肉等の虚弱ということです。それで私は健康管理として、自分の車をやめ、一日五千歩を目標に、趣味の英会話教室や社交ダンス並びにそろばん教室へ行く時は、バスに乗ったり杖をつけて歩いたりしています。この英会話教室ですが、外国人の先生と話す時、そろばんの事も話題になります。海外でのそろばんの普及状況および日本と中国のそろばんの違い等を楽しく話し合っています。

最後に、暗算の試験は引き続き参加したいと思い、練習しています。ただ、能力が弱くなって、全体的な底上げは難しいと思い始めています。そこで、かけ暗算はやや上昇するかと考え、かけ暗算を集中して練習しています。



## 出会いに感謝

税理士 升田 幸子

そろばんを習い始めたのは小学1年生の時です。3歳上の姉がそろばんを練習している姿をみて、私も姉の真似をしたくて「そろばんをやりたい」と母に言ったことを覚えています。

近所の梶谷珠算塾に入塾し、そこで梶谷成子先生に出会いました。先生はいつも元気いっぱい、声が大きく、先生と話すだけでパワーをもらえる、そんな先生でした。しかし、練習についてはとても厳しく、先生から逃げるように教室の後ろの席に座っていた時期もあったことを思い出します。

小学2年生から選手クラスに入り、大会にも参加できるようになりました。その頃から、そろばんは単なる習い事から、「生活の中心がそろばん」へ変わっていきました。

練習に励む日々は楽しいことばかりではなく、スピードと正確性、このどちらも伸び悩み、つらい時期が何度もありました。その度にそろばんをやめたいと思いましたが、「やめたい」と先生に言うのが怖く、打ち明けられないまま練習を続け、気付けばまたそろばんが楽しくなっている、ということを繰り返していたように思います。

今考えると、ただ怖いだけではなく、がんばったときは力強く抱きしめて褒めてくれる、そんな先生が大好きで、先生に褒められたいという気持ちでがんばっていたのかもしれない。

小学生の高学年から中学生になると、大会の団体メンバーに選んでもらえることが増え、他のメンバーの努力を間近で見ている分、私が足を引っ張らないようにという思いで、練習に励んでいたと思います。高等学校で珠算部に入部すると、中学時代とは比べものにならないくらい練習に明け暮れる日々が始まりました。毎朝5時に起床して、7時30分からの早朝練習、授業が終わったら放課後3時間の練習、土日祝は8時間、休みは正月三が日のみというスケジュールで、高校時代は、「生

活のすべてがそろばん」でした。

このつらい日々を乗り越えられたのは、厳しくも温かく指導してくださった顧問の早川雅美先生や、一緒に切磋琢磨してくれた仲間と、生活を支えてくれた家族のおかげです。

練習の成果が実を結び、団体戦で高校日本一を達成できたことは、私のそろばん人生における最大の喜びとなりました。

現在は、税理士として独立開業し、日々の業務に励んでおります。税理士試験は平均合格年数が7年程度と言われる長丁場な試験で、私は資格取得まで9年かかりました。勉強時間を確保できず受験を断念した年もありましたが、「継続すれば必ず結果につながる」という信念が私を支えてくれました。この揺るぎない信念は、そろばんを通じて培ったもので、自分自身が幼い頃から身をもって経験していたからこそ、自分を信じてがんばり続けることができたのだと思います。厳しくも愛情深く指導してくださった先生方に、心から感謝しております。この出会いがなければ、粘り強く何かに挑戦できるような精神力は養われていなかったと思います。

そろばんとの出会い、技術指導だけでなく人生の師として私を導いてくれた先生方との出会い、一緒に切磋琢磨してくれた仲間との出会い、その他多くの珠算関係者の方々との出会いは、私の人生に大きな影響を与えてくれました。私を育ててくださった皆さまへの感謝を忘れず、これからも税務の専門家としての責任を果たしながら、社会に貢献できるよう精進してまいります。

文中の、梶谷成子先生（日本珠算連盟広島県連絡協議会会長）は、2025年2月9日逝去されました。ご冥福をお祈りいたします。



## 「意味のない」時間

京都大学二年 竹生 晴彦

私は小学四年から高校三年まで珠算を続けましたが、率直なところ、珠算に打ち込んだ人間であるとはとても言えないと感じています。故に何を書こうか、と思案してみて、週に3回の通塾、当時の私の生活の一部を間違いなく形作っていたであろう時間の意味と言うものを、改めて思い返してみようと考えました。

私にとってあの時間、数字の配列を一心に追い続けていた日々は、ある意味では意味のない時間であり、しかしそれ故に私を励ましてくれるものであった。そのように思います。

私が珠算を始めたきっかけは、友人に誘われたから、という取り留めのないものでした。当時からずっと一貫していたのは、珠算は自分にとって「趣味」であるということです。大会で上位に入るとか、早く段位を取るとか、その様な到達的な目標に私が情熱を傾けることは最初から最後までありませんでした。しかし一方で珠算の時間を苦痛に思うことも一度もありませんでした。私は上達のため、検定のためというよりもただ珠算のために珠算をしていました。熱中するほどではないけれどそれなりには楽しい、一つの趣味として。

中学、高校に進んでも、私は（それほど辞める理由も無かったので）珠算を続けていました。しかし、この頃から珠算の時間には異なる意味が与えられるようになりました。

高校生の私は陸上部の練習に熱中するようになりました。私は三段跳びの選手として、少しでも速く走り、少しでも遠くに跳ぶために毎日数時間の練習を行い、試行錯誤を重ねていました。決して「趣味」などではない、本気の熱中です。並行して毎日の授業や土日の模試など、勉学も忙しく過酷なものになっていたため、当時の私の疲労や精神的負担は大きなものでした。

そのようななかで、必ずしも上を目指して苦しむことのない、ただその目的のために楽しんで行う「趣味」として私を救ってくれたのが珠算です。毎日、勉強と陸上で疲れ果てた後も、珠算塾に行ってただ数字と向き合うことで、心をリフレッシュさせることができました。それは当時の私の生活における数少ない「意味のない」時間でしたが、だからこそ無くてはならないものだったと、今になって気付きました。

実を言うと、珠算の方でもより高い段位を目指してがんばっていた時期はあるのですが、中学の頃から極度のあがり症に陥ってしまい、練習では高い得点が取れていても、試験場では手が震えて上手く動かせなくなり点数がほぼ半減してしまうような状況が続きました。そこで私は検定を諦め、代わりに月の頭にさくらそろばん塾で行うそろばんコンクールの模擬問題にやる気を出すようになりました。高三のころに一度だけ1000点満点中950点を超えることができたのは、(何の公式な記録でもありませんが) 嬉しい記憶として残っています。

私が珠算をしていた十年近くの時間は、言ってみれば大して「意味のない」ものであったかもしれません。正直なところ珠算の経験が今の生活の何かに活かされているかと言えば、少し答え難いところがあります(集中力などは多少育った気もしますが…)。しかしそれ以上に大切なのは、私にとってあの時間が間違いなく掛け替えのない心の支えになっていたということです。

珠算は、たとえ検定に受からなくとも、将来に活かせなくとも、それ自体として楽しいものです。今、珠算に励んでいられる皆さまにとってもそうであること、珠算が一人でも多くの人間の心の支えになれることを、心より祈念いたします。



## そろばんがくれた 未来へのきっかけ

税理士法人ウィレイズ 公認会計士・税理士 濱田 順平

私は5歳のときに、家の近くのそろばん塾に通い始め、そろばんと出会いました。最初は習い事のひとつとして始めたものの、気が付けば夢中になっており、平日は学校から直接そろばん教室に向かう日もあるほど熱中していました。

小学校低学年の頃から、そろばんは生活の中心にありました。毎日3～5時間練習することも珍しくなく、週末には一日中そろばんに向き合う日もありました。そのような日々の積み重ねが、技術の向上や集中力、粘り強さを育んでくれたと感じています。計算の速さだけではなく、精神面の成長にもつながる学びだったと、今になって強く実感しています。

やがて全国大会にも挑戦するようになり、同世代の選手たちと切磋琢磨するなかで、さらなる高みを目指すようになりました。小学6年生のときには全国大会で2位という結果を残すことができたものの、優勝を目指していたなかでの悔しさは大きく、その経験が次なる成長への原動力になったきっかけでもありました。失敗や挫折をどう乗り越えるかということも、そろばんを通じて学んだことのひとつです。

中学時代には、日本珠算連盟主催の暗算検定十段を取得することができました。高校では茨城県にある水戸商業高校へ進学し、珠算部に所属して日々練習を続けました。進路を考えるなかで、これまでのそろばんの経験を活かし、数字に関わる仕事がしたいと思うようになり、自分の強みを活かせる分野として、自然と会計という世界に興味を湧いていきました。

そして明治大学入学後、公認会計士を目指すことを決意しました。当時は1日10時間以上の勉強を毎日継続することは大変だと感じさせられましたが、それでも諦めずに続けることができました。そして、大学3年時に一発で合格することができたのは、そろばんを通じて身につけた計算力や集中力、記憶力が、試験勉強において大きなアドバンテージになったものと実感しています。

合格後は大手監査法人に就職し、実務経験を積みました。その後、25歳で独立し、公認会計士・税理士として法人を設立しました。今では15名の社員とともに、中小企業の経営や税務の支援を通じて、経営者の皆さまに寄り添いながら日々仕事に取り組んでいます。若い世代の挑戦を後押しできる存在として、今後も現場に立ち続けていきたいと考えています。

自分のやりたいことに全力で取り組める今の人生は、そろばんとの出会いがあったからこそのものであり当時の選択は間違っていないものと確信しています。

私自身、そろばんを通じて得たものは大きく、その努力は決して無駄ではなく、将来の夢や目標に近づくための確かな一歩になりました。これからそろばんを始める方や、今も練習を続けている方へもこの体験をもとにそろばんへの興味が増えていくことを期待します。そしていつか、そろばんで培った力を活かしながら、同じ志を持つ方々と一緒に仕事ができる日がくることを、密かに楽しみにしています。





## 人生のターニングポイント

東京大学大学院 理学系研究科 化学専攻  
菅研究室 修士2年 玉置 陽菜

私は小学1年生からそろばんを始めました。習い始めたきっかけは母の強い勧めでした。そろばんとは何かも知らないままそろばん塾に通うことになったのですが、この出会いが私の人生を大きく変えました。

まずは私がそろばん塾に通っていた頃の話です。私はそろばん塾で多くのことを学びました。そろばん塾の先生はとてもしっかりとした方でしたが、結果よりもその努力の過程をしっかりみて評価してくださる素晴らしい先生でした。そんな先生だからこそ、信頼してついていくことができました。叱られた時も素直に受け止めることができました。そろばん塾では、数字の書き方や宿題のやり方など、計算以外のことも教わりました。特に印象に残っているのは遅刻に対する徹底した指導です。授業が始まる時間に1秒でも遅れると教室に入ることさえ許されませんでした。元気よく挨拶するなど、細かいことを挙げ始めたらきりがありませんが、そろばんを通して、私は人として必要な礼儀や作法を学びました。

私がそろばんを通じて身に付けたものの中で、その後の人生に最も影響を与えているものは、“自分で限界を決めない”という考え方です。そろばんの級が上がったり、コンクールに出場し始めたりすると、難しい問題が増えてきます。その度に、これほどの計算を成し遂げることなど果たして私に可能なのか、と途方に暮れました。それでも必死に練習を続けると、不思議とできるようになりました。このように、そろばんと向き合うなかで、一度は不可能かと思われたことが可能になったという経験を何度もしました。この経験から、今の私にとってその目標が大きすぎたとしても叶えられないと決まったわけではない、まずは努力して

みてからだ、という考え方が私の内にある人格の核に深く刻み込まれました。目の前にどれほど大きなハードルが立ちはだかっても、そのハードルを真に乗り越えたいと思うのであれば、私は決して逃げず、必死に一步ずつ前へ進みます。私は幼い頃から、将来は研究者になりたいという夢を持っていました。その夢を叶えるため、これまで必死に勉強してきました。その甲斐があって、現在では東京大学にある世界でもトップレベルの研究室で創薬の研究を行っています。私は決して天才タイプではなかったため、今いる場所に辿り着くまでの道のりは極めて険しいものでした。何度も心が折れそうになりながらも、粘り強く地道に勉強を進め、ようやく将来の夢を叶える一歩手前のところまで辿り着くことができました。もしパラレルワールドが存在し、そこにそろばんを習わなかった私がいたとしたら、その私は今の私のように高みを目指して夢を実現することは確実に不可能だったと思います。それほどまでにそろばんは私の考え方や行動に深い影響を及ぼし、その出会いは私にとって大きなターニングポイントとなりました。そろばん塾をやめてもう10年以上経ちますが、私の頭の中にはいつもそろばんがあります。

今の私の夢は、科学の力をもって、世界規模での健康増進に貢献する研究者になることです。今後も、そろばんで培った“自分で限界を決めない”という精神を胸に、日々精進してまいります。

私がこのように成長できましたのは、厳しくも温かくご指導くださった先生方のお陰でございます。最後に、星るみ先生をはじめ、ご指導いただいた先生方へ心より感謝申し上げます。



## 珠算とともに生きて

公認会計士 渡辺 雅子 (旧姓 大石)

私の珠算人生は約20年間の競技生活であり、その後は珠算から離れてしまいました。還暦を過ぎた今では、当時の計算力は随分落ちてしまいましたが、珠算で培われた精神と能力は、私の土台であり、ずっと私を支えて助けてくれています。

両親が珠算塾を経営していたことから、3才で九九を覚えて、珠算一筋の幼少期でした。朝は父が読み上げる読上算から始まる。その読み上げる速さについていけず悔し泣きしながら学校に通い、帰りは走って帰宅してソロバンを弾く。塾の練習後は母による読上算が正解になるまで続く。将来の夢はもちろんソロバン日本一。無心に珠算に没頭しました。しかし、そんな私も高校になると反抗的になり、部屋に閉じこもって練習を拒否し、隠れて勉強し東京の大学に進学しました。

資格は、20才のとき日本珠算連盟主催段位十段合格。競技大会では、中・高校時代に地元の福島県一、東北一。大学時代は東京のトップ選手たちと一緒に練習し、国民大会に都道府県対抗競技メンバーとして出場し入賞しました。選手仲間との出会いと交流はとてもありがたい大切な思い出です。また読上算競技の日本一になることができ、このときは父に恩返しできたと心から安堵しました。例え種目別競技であれ、子どもの時からの夢が叶ったと思えたことは、やればできると自信になり、両親への感謝でいっぱいでした。一方、総合競技では練習の成果を大会で思うように出せず、幾度も挫折や涙を味わいました。

大学卒業後は、4年間都市銀行でSEとしてシステム開発に従事したのち、システムと数字に強いことを生かして公認会計士になろうと決心。1年半の勉強の末に合格し、大手監査法人のトーマツに入りました。育児と仕事の両立をなんとかこなし、30年間勤務。そのうち13年間はパートナー

として監査責任者を務めました。その後、上場会社の社外役員（第一三共(株)監査役、(株)サカタのタネ取締役）を拝命して4年が過ぎます。

この間、様々な業種の多くの経営者の方々と面談し議論を交わしてきました。なかには、会計処理をめぐる相手が感情的になる厳しい交渉も。しかし、競技大会で味わった緊張感に比べたらなんてことはない。静かに自分のやるべきことに集中し誠実に対峙する、何十回と出場した大会で鍛えた胆力です。また、もう一つ珠算から得た大きな財産は、“目の力”です。いくら膨大な会議資料であっても、一心に集中して資料を速読で読破し、要点を捉え問題点を見逃さない。誰よりも早い。見取暗算の特訓で培った目の速読力、集中力は今でも衰えることはありません。

私生活では現在、テニス、ヨガ、ゴスペルに勤しんでいます。テニスは15年前から個人指導も受け練習していますが、もともとスポーツが苦手で加齢の体力低下もあり、思うようにはいきません。でも、進歩する喜びや仲間やコーチへの感謝を感じながら前進しています。また、55才の時に出会ったヨガは、自律神経を整えるうえでも私にとって必要なものであり、若者に混じりヨガ学校に通いインストラクターの資格を取得しました。

やりたいことにまっすぐ突き進む心、自分に限界を作らず、信じてあきらめず続けられる力もまた、珠算人生を通して得た宝物です。これからも、学校から走って帰宅した小学生の頃の情熱そのままに、やりたいことに挑戦を続け、自分の世界を広げていきたい、どんな出会いが待っているか楽しみです。珠算はたくさんの力を私に与えてくれました。この素晴らしい珠算が末永く伝承され、一人でも多くの子どもたちが珠算を学んでよかったですと実感してくれることを心から願っています。



## そろばんの人生

富山県「蜃気楼の見える街」魚津市 保要 孝三

遠い昔の話になります。1957年の秋でした。8歳年上の姉が自宅でそろばんを弾く姿を見て、指の動きや珠の音に魅了されたことが、私の原点となりました。

裕福とは言えない家庭でしたが、どうしても習いたくて親に懇願し、そろばん塾に通わせてもらうことになりました。

当時としては珍しい、小学1年生での入門でした。当然九九もまだ覚えておらず、最初の9級受験では、問題用紙に九九の一覧表を添えて挑みましたが、不合格。それでも楽しく、面白く感じた記憶があります。

翌年3月には7・8・9級を同日に受験し、すべて合格。このときの喜びと自信が、次へのステップとなったのだと思います。

2年生の3月には、ついに3級に合格。この頃から、近隣の人やクラスメイトから注目されるようになりました。その後もつまづきながらも努力を続け、4年生でようやく全珠連の1級に合格。ならばと、さらに上を目指して日商1級にも挑戦したものの、伝票算に何度も阻まれ、いつの間にか挫折してしまいました。

時が流れること約10年。1973年、私は会計事務所に就職し、再びそろばんとの再会を果たします。当時はまだ電卓が普及しておらず、国鉄（現在のJR）などの窓口でも、そろばんが主流でした。

しかし、その後の10年ほどで、関与先の事務員がそろばんを使う姿は、ほとんど見られなくなり、世の中あつという間に電卓時代に入りました。

そのようななか、意地というより「昔取った杵柄」として、私は「そろばんの方が速くてやり易い」と信じて使い続けました。そして、気がつけば50年。周囲には違和感や驚きを持たれたかもし

れません。

現役生活を終えた一昨年。特に趣味もなく、これからの老後を考えるなかで、「何かしなければ」と思い立ちました。そして、50年の経験を生かし、「1級満点合格」を新たな目標に掲げました。

近所の瀬戸珠算教室の門をたたき、小中学生と机を並べ、先生の親身なご指導を受けながら、まずは「とにかく合格を」と、無心で1回目の受験に挑みました。結果は1間違いで合格。予想以上の手応えを感じ、2回目に向けて日々練習を重ねました。

徐々に上向き、可能性が高いことを感じるようになりましたが、緊張が思わぬ壁となりました。2回目、3回目、4回目と「よ～い、始め」の声と同時に極度の緊張が走り、指先がままならず、時間ぎりぎりの解答。これでは到底、満点は望めません。

トラウマになるのではと心配しましたが、5回目の挑戦では少し緊張も和らぎ、昨年（2025年昭和100年）2月、74歳にしてようやく念願の満点合格。これ以上ない喜びに包まれました。

最後に、私は「そろばんとは、根気強さと、たゆまぬ練習がすべて」と信じています。その成果は、計算力にとどまらず、集中力や忍耐力など、多くの面に波及します。

そのことを、ぜひ若い世代や、子どもを持つ親御さんにも知っていただきたいと強く願っています。





## 出会いに感謝

学校法人時任学園 樟南高等学校 西村 成央  
(尾道市立大学 入学予定)

まず初めに、「そろばんで凄い人」への執筆という大変貴重な機会をいただけたことを感謝します。このような機会をいただきましたので、今回私の人生にそろばんがどのように関わってきたのかを少しお話させてもらいます。

私がそろばんを習い始めたのは、幼稚園の年長の頃でした。その当時から数字が好きだったため、興味本位で「南の郷そろばん教室」に通い始めました。小学生では、同じタイミングで通い始めた友人や先輩方と一緒に切磋琢磨しながら練習をしてきました。大会で入賞した経験や検定の合格した結果により、練習に熱が入るようになりました。中学生では、部活動で野球もしていたため、そろばんと野球の両立をするのは難しかったです。がそろばんを簡単に辞めることは考えられず、練習を続けていました。高校の進路を決定する際、小学三年生から続けていた野球をするのか、それとも昔から長くしているそろばんを続けるのか悩みました。しかし、そろばんが好きだったためそろばんの道に進み、がんばろうと決意しました。高校では、珠算部に入学し、全国の大会をメインとして出場するようになりました。この大会では、普通計算に加え、今までやってきたことがなかった応用計算の合格得点で点数を競う大会でした。高校二年生の全国大会まではそろばんに対しての熱量はあまりなかったと思います。しかし、高校二年生の全国大会で団体四位という悔しい結果になり、来年は必ず団体で全国優勝をしようと部員全員で目標を設定し、日々の練習に力を入れて取

り組みました。それからたくさんの合宿に参加し、県外の強い選手と練習することで今までにない経験をすることができました。しかし、私は周りの人に比べてそろばんや暗算の技術はありませんでした。そのため、部活動が終わった後もそろばん教室に通い、家に帰ってもそろばんをするなど人一倍努力するように心掛けていました。今振り返って見ればそろばんを習い始めてから一番そろばんに熱中していた時期だったと思います。努力を続けた結果、2025年の夏に開催された全国大会では団体個人ともに優勝することができました。初めてそろばんをやってきて良かったなと思える瞬間でした。全国大会で優勝できたのも多くの人の支えがあったからだと思います。時には大会で思うような結果が出ず、そろばんが嫌になり辞めたいと思うことも何度もありましたが、両親に励まされ、多くの人の支えによりそろばんを続けることができました。

私は長年取り組んできたそろばんを通して、多くのことを学ぶことができました。その中でも特に、集中力と継続力が身に付きました。そろばんをし続けて良かったなと心から思います。

今まで関わってくれたすべての人に対し、この場をお借りして感謝します。ありがとうございました。そろばんを通して得た経験がこれからの人生に必ず大きな力を与えてくれると思います。今後の人生でそろばんを少しでも楽しいと思える人やそろばんをやっていて良かったと思える人が少しでも増えてくれたら嬉しいです。